

R 3 . 1 0 . 2 0 令和3年度第1回北斗市総合戦略検討・推進会議 議事概要

◎司会進行 企画課長

1 開 会

- 開会に当たり、市を代表して工藤副市長より挨拶
- 事務局から、会議の趣旨説明、配付資料の確認、委任状の交付（机上交付）、新任委員の紹介（7名）、欠席委員の報告（5名）

2 議事

- (1) 会長・副会長の選出について
 - 事務局案のとおり会長・副会長を指名
 - 会長挨拶

◎以降会長が議事進行

- (2) 第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について
 - 資料1、2に従い、企画課長から基本目標ごとに数値目標と施策ごとのKPIの進捗状況について説明。
 - 担当部長から主な事業の実施状況、今後の方向性について説明を行い、質疑を受けた。

・基本目標1について

発言者	発言内容
委員	<p>○未整備森林現況調査事業について、現況調査が必要なことは理解できるが、速やかな森林整備を推進するという森林環境譲与税の理念に基づいた企画をしてほしい。</p> <p>○木育等奨励事業については、大変ありがたく今後も継続してほしい。</p> <p>森林認証について、はこだて森林認証推進協議会にて山ごと認証を進めている。JIS規格の認定を受けている認証材を、公共材などいろいろなことに活用してほしい。PRが足りていないと思われるため、推進協議会に加入している市町にPRの協力や積極的な活用をお願いしたい。</p>
経済部長	<p>○森林環境贈与税は、令和元年度から交付されており、令和元年度は4,887万円の交付があり全額基金に積み立てしている、令和2年度令和3年度はそれぞれ1,833万4千円の交付があり、使途内訳は、私有林の整備補助金や森林現況調査等の森林整備分として1,190万2千円、木育等の奨励の事業等の森林整備分以外に253万円、残りの390万2千円は、森林環境基金の方へ積み立てている。</p> <p>○木育等の奨励事業は、令和4年度以降も継続する考えである。</p> <p>○認証材の活用、PRについては、市と森林組合で連携して進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>○ふるさと納税について、高校生が実習で作った缶詰などを今年返礼品に登録したということだが、更に拡充し高校生等の若者が、北斗市の農業・漁業の方とコラボし返礼品を作るといった企画は、生徒にとっても貴重な体験になるし、業者にとっても話題性という点でメリットになり、PRにも活用できる。こういった若い人の力を活用して地元の産業をPRするという企画をどんどん実施すると良い。今後、拡充する計画があるのか確認したい。</p>
企画課長	<p>○ふるさと納税は全国的に需要が伸びており、新たな取組として水産高校と</p>

企画課長 (続き)	<p>農業高校の生徒が実習で作ったものを返礼品として登録し、かつ実習の動画を市のホームページで紹介している。</p> <p>○委員の指摘のとおり、水産高校や農業高校の生徒だけでなく若い学生に協力してもらいPRすることは、非常に良い方法だと思う。</p> <p>○水産高校のさけとばチップスや、大野農業高校のアンテナショップ等は非常に人気が高く、そういった人気にあやかってPRしていきたい。</p>
経済部長	<p>○学生とのコラボではないが、五島軒と上磯郡漁協上磯支所がコラボして、峩朗牡蠣を使った峩朗牡蠣カレーの開発に取り組んでおり、完成した際にはふるさと納税に活用したい。</p>
会長	<p>○新函館北斗のワークスペースの設置について、空港の有料ラウンジのような、お金を生み出せる環境を目指すことで、サテライトオフィス設置についても少し前向きに検討が進んでいくのではないかと思う。</p> <p>○ワークスペースのあり方について考え方を知りたい。</p>
経済部長	<p>○ワークスペースの設置場所は、観光交流センター別館のほっくるの空きスペースを利用し、10席分の机とテーブルを用意している。</p> <p>○経済効果といった話があったが、あくまでもワークスペースは仕事してもらおうスペースと考えている。しかし、ほっくる内に設置することで、ほっくる内の店舗の利用等の相乗効果が生まれるものと期待をしている。</p>
委員	<p>○ワークスペースを利用した人は、駐車場が無料になるとか、若しくは利用者用の駐車場が用意されているといったことは考えているのだろうか？</p>
経済部長	<p>○駐車場との連携は、特段考えていない。立体駐車場、整備中の平面駐車場には2時間まで無料となっており、2時間を超えた場合は料金を負担していただくことになる。</p>
委員	<p>○2時間で終われば良いが、2時間で終わる人たちがどれくらいいるのか疑問である。屋外の駐車場は、冬期間には積雪で酷いことになることから、ワークスペース利用者には屋内駐車場を完全無料にしたほうが良いのではないかと思う。</p>
経済部長	<p>○検討させていただきたい。</p>
会長	<p>○大学の地域協働推進センターとコラボできそうな事業として、例えば着地型観光担い手づくり事業では観光プログラムの仮プログラムの造成が考えられる。コラボが可能であれば、大学の授業として行い、学生たちと一緒に学生発信・学生目線のプログラムをつくることができる。</p> <p>○今年胆振の厚真と道南の森町と八雲と厚沢部の4町に、2週間滞在型の実習行っており、厚沢部では2週間農業体験をして帰ってきている。食費、交通費といった滞在にかかる経費は、ある程度地元負担してもらい、学生は殆ど経費がかからないで実習体験ができるプログラムに仕立て、学生たちには2週間の実習で単位を付与しているが、学生たちはものすごく喜んで帰ってきている。満足度が高い。ある意味実習先のファンになって、大学に戻ってくる。こういう取組を道南のいくつかのまちで実施しており、活用できないかと考えている。</p> <p>○大学では巡回型サテライトオフィス授業という、大学の取組等を各自治体に紹介しながら、いろいろな分野でコラボ等の可能性を模索する等の会議を、地域を巡回し実施している。その中で一つでも二つでも生徒とコラボレーションの可能性を協議できればと思っている。検討してほしい。</p>
経済部長	<p>○コラボということでは、JTB とそういった取組をしている。委員の提案については、今後検討させていただきたい。</p>

・基本目標2について

委員	<p>○令和2年度の167人の転出超過のうち外国人の流出が何人か把握しているのか確認したい。</p> <p>コロナ禍の中で日本に入学できない中、出ていく人ばかりであり、転出者が多い理由の一つに、外国人の転出があると思う。</p> <p>外国人が北斗市から出ていく理由は、東京や大阪といった温かいところに行きたいという人が圧倒的に多いことがあると考えている。</p> <p>外国人材についてアンケートを実施すると記載があるが、アンケートでは中々現状とか実情とか伝えづらいため、コロナ禍等で難しいとは思いますが、可能であれば面談等の話を聞く機会を設けてもらいたい。</p>
企画課長	<p>○外国人人口は、令和2年度の4月で316人、3月で333人ということで、住民基本台帳上は、令和2年度については、外国人人口は減少していないが、令和3年度に入ってから直近で減少がみられている。</p>
経済部長	<p>○委員から面談等の実施という話があったが、私共もノウハウがないため、企業と打ち合わせを行い、実施に向けて検討していきたい。</p>
会長	<p>○全体的にはアンケートを実施しつつ、何人かに話をきける状況を作るということも考えられるのではないかと。</p>
委員	<p>○音楽等の文化の振興関連でお願いしたいことがある。</p> <p>かなで〜る協会でコンサート等を主催しているが、かなで〜るの定員は1,000名であり函館市民会館の定員が1,350席ということと比べると、有名アーティストを呼ぶのが非常に厳しい。また、いろいろな種類の舞台がある中で、演劇舞台は北斗市では人が入らないが、文化振興のため赤字になっても主催しなければならない。</p> <p>有名アーティストの誘致をするのであれば、屋外を視野にいれると良いのではないかと。ただ、その場合は大掛かりな装置が必要になり、かなで〜る協会だけで運営していくのは難しいとの意見があるが、考えを確認したい。</p>
企画課長	<p>○シティプロモーションでこうしたアーティストの誘致を掲げた経緯として、函館市民会館が耐震改修工事で2年間休館している時期があり、その間であれば、かなで〜るに来てもらえる可能性があると考え、関係団体と相談し誘致活動を進めた。</p> <p>○大ホールだけではなく、八郎沼公園や、きじひき高原などでの音楽フェスなどの可能性についても施設のパンフレットを作成しPR活動をしている。</p>
教育次長	<p>○かなで〜るの規模に見合った内容で、いろいろな方に来ていただいて市民の皆さんの文化振興につなげていきたい。</p> <p>○かなで〜る協会単独ではなく、市も共催という形で協力していきたい。また、北海道の補助等も活用してアーティストを誘致し、市民の皆さまの文化振興を図る環境づくりを進めていきたい。</p>
委員	<p>○9月13日からほくようテレワーク・移住応援プランを始めており、道内に移住定住する方を対象に住宅ローンの金利を優遇している。現状の10月初旬までの半月間で、各自治体から多数の問い合わせがあり、上場企業の会社員を中心に、件数では5件、金額として2億円の申し込みを受けており、かなりの反響をいただいている。また、全道的な動きとして、コロナ禍においてテレワークの増加から、移転して早く入居したいという需要が高まり、中古物件が非常に活況となっている。北斗市空き家バンク事業に関連することになるが、市内でも不動産の売り看板を多数見かける。北斗市においても物件の継続的な成果や情報の収集が必要と思う。</p>
企画課長	<p>○こうした取組については、市のHP等で周知しながら、市の空き家バンク利用の促進につなげていきたいと考えている。</p>
委員	<p>○UIJターンについて、Iターンは大変難しいと思うが、UターンJターンは、考える人が多いと思う。その人たちは仕事の情報を一番求めている。成人</p>

委員 (続き)	式等で奨学金の周知をするということだが、仕事の情報とセットでダイレクトなアプローチを高校の同窓会の広報紙等で行えば、アクセスしやすいと思うが、そういった取組はしているのだろうか。
副市長	○指摘のとおり I ターンは難しいが、U ターンや J ターンは地元ということでなじみがある。市や国のアンケート結果では、地方に対して関心をもって若者は多数いるが、それは漠然とした思いであって、実際移住となると仕事の有無や、地方の生活環境で余暇を楽しめるのか、といったことが問題になる。実際、北斗市になじみが全くない方は殆どこない。そういったことから、なじみのある方に対して教育委員会の奨学金を含めて優遇措置を実施している。 ネックである仕事については、道南全体の状況が首都圏の収入と比べると、少々格差があったり、いろいろな若者たちの職業に対するニーズになかなか応えられていない部分も相当あるのと思うが、既存の企業や追分 IC のところでもお話ししたとおり、企業の利害とも一致するとすれば、利便性のあると思われるところを開拓しながら、少しでも働く場を確保し、ご指摘いただいたような仕事と制度をセットで効果的にご案内できる、そういった取組をしていかなければならないと考えている。

・基本目標 3 について

委員	○不登校児童生徒について、タブレットを活用してリモートでの学習等の取組がなされているのか知りたい。 北斗市の子育て支援に関して、未就園児や幼稚園児、小学生と一緒に遊べるような施設がない。また、北斗市には、授乳室がなかったり、おむつを替えるベッドがなかったり、子どもと入れるトイレがない施設が多い、だいぶ改善されてきたとは思いますが、ワンストップで見られる場所、それと、どこでも赤ちゃん用のミルクのお湯と、一緒に入れるトイレを観光施設なり、あるいは大人しか使わないだろうと想定される場所であっても、必要とされる方はいるはずなので、使いやすいように保健師の意見も取り入れながら導入して貰いたい。 ○新幹線駅のワークスペースも良いと思うが、道南杉で遊べるスペースなどがあれば、待ち時間で子どもを遊ばせることができ、北斗市を好きになってくれる家族が増えるかもしれない。子育ての分野だけでなく、そういうところも子育て世代のお母さんや、保健師の意見を広い範囲で取り入れていただきたい。
教育次長	○実際に数校で全員ではないが不登校児童にタブレットを渡して、活用方法について協議検討中である。カメラを固定した中で授業風景を映す等の試行もしたが、それだけで全てがフォローできるわけではなく、タブレットを補助教材に使っている場合もあり、その中で活用する方法や、タブレットの中に問題集を先生方が取り込んで、その問題集を生徒にやってもらう等、いろいろな形で実施している。 各校から出た問題点や改善案をプロジェクトチームで各校の代表が集まった中で、検証を行い、次年度にもっとスキルアップした形で活用していきたいと考えており、不登校の児童生徒への活用方法についても、現在いろいろと問題点の整理をしている状況である。
民生部長	○今日の会議が人口減少問題に対するさまざまな取組の検証ということで、例えば子育て支援では、まず、子どもを生み育てる上で安心できる環境づくりということを第一義的な考えにおいて取り組んできている。 未就園児や幼稚園児、小学生が共に過ごせる環境づくりといった考え方は大切な視点だと思う。

建設部長	○現在運動公園のリニューアルを進めており、令和元年から令和2年にかけてワークショップ形式で、子育て世代等の様々な人に参加してもらい改修の案を作成していただいた。それをさらに庁内で検討して、パブリックコメントにて市民の皆さまの意見を募集し、作成した基本構想を基に実施設計をしている。その中では、就学前の児童が遊べる場所が市内には少ないため未就学児童用の遊具を設置してほしいとか、芝生の上を裸足で歩けるような整備をして欲しいとか、そういった意見をいただいております、その意見を取り入れながら、来年度以降整備していく予定になっている。
------	--

・基本目標4について

委員	○運動公園のみならず町内会にある公園なども広いのに遊具が少なく、子どもたちが遊べるものが少ない。公園の遊具の増設を町内会の意見として、市役所へ話をしたとき、子どもたちが怪我するなど責任の押し付け合いのようなことになり話が進まなかったということがあった。運動公園のみではなく、もう少し町内会の空いている土地や公園のことに協力的にしていきたい。
建設部長	○児童公園や緑地の遊具は、毎年点検をして危険度を調査しながら、すぐに更新できない場合などは、利用禁止テープを貼るなどしている。更新は、毎年計画的に町内会の要望などを聞きながら行っているが、要望のとおり全てにすぐ対応できるものではなく、計画的に進めているところである。増設の要望などは、子どもたちが急な増減など、町内会ごとに異なってきており、町内会の役員と話をしながら、要求のあった施設の更新などに努めておりますので、ご理解いただきたい。
会長	○危ないから遊具を作らないわけではなく、順次更新を進めていくということか。
建設部長	○危険なものに関しては、一時的に使用禁止とはしているが、遊具が危険だから最初から整備しないということではない。
会長	○巡回ワゴンについては、総合戦略の委員の皆様にも、ぜひ乗っていただきたい。
企画課長	○巡回ワゴンにつきましては、10月1日から実証運行しております、平均すると1便当たり1.1人くらい、補助基準上は1便当たり2人乗らなければいけないので、現状下回っているところで、今後も市では周知PRに努めていきたいと思いますが、委員の皆様からも、地域住民へ周知願いたい。
会長	○だまっても乗ってもらえないと思いますので、モニターのように私たちも協力したい。

※全体を通して再度質疑を受けた。

委員	○函館地域産業振興財団への協力とは、どういうことか。市にメリットはあるのか。
経済部長	○令和3年度の事業を見ると、創業バックアップ事業で市内の事業者が申請して採択になりまして、今年は300万円いただいている。こういった助成金は、それぞれの自治体が負担することになっている。
委員	○それは事業者が北斗市から出ているということで助成しているのか。
経済部長	○その通りである。
委員	○函館という名前がついているが、函館地域とは、北斗市、函館市、七飯町である。この3つの行政機関から補助委託を受けて、いろいろな事業をしている。その3地域の企業の方の技術的な支援や販路開拓、販売に関するアドバイスやセミナーを行うなどの活動をしている。それと工業技術センターも管理しており、北斗市の企業にも利用いただき、技術の発展を支援させてい

委員 (続き)	ただいている。もうひとつ、最近力を入れているのが創業・起業で、会社を起こす取組に協力しており、それが先ほどご質問のあった「バックアップ助成金」というもので、新しく会社を起こした方が大きくなるように支援している。函館と名前についているが、北斗市の企業も一生懸命バックアップしている。
委員	○コロナ収束後を見据えた事業になると思うが、今年は春に新外環状線が開通して、函館の交通の流れが大きく変わり、大きく時間短縮になる。北斗市も直結しており、北海道新幹線を利用したアクセスの良さもあるが、空港へのアクセスの良さをもっと宣伝していければよい。 ○ライトアップ事業を進められているが、NCVのほうでも今週撮影に行きたいと思っており、ライトアップ事業の魅力を発信してもらえば良いと思う。
経済部長	○観光という話がありましたが、経済部では企業誘致、この地区の強みとして交通の要衝であるところをPRしていきたいと考えている。

3 その他

委員	○函館地域産業振興財団は、インターチェンジを降りて、温泉のすぐ近くにある北海道立工業技術センターという建物の中に入っており、先ほど言ったような取組をしている。ぜひ、北斗市の皆様にも利用いただきたい。誰でも自由に見学可能であり、機会があれば中を見て、どのような仕事をしているか知っていただければ、ご理解していただけたらと思う。団体の見学も常時受け付けているので、個人というより、団体で来ていただければご案内しますので、お願いします。
会長	○先日、森町で巡回サテライトを行った。参加いただいたのが総合戦略の委員の皆さん、有志の皆さんだった。町の関係者と総合戦略の皆さんが一緒になって、大学の取組とコラボレーションの可能性について議論した。魅力のある取組で、森町も良いところに目を付けたと思う。ぜひ日程調整を進めて、北斗市とも意見交換したい。その際には、総合戦略の皆さんにもお声がけしていただいて、参加いただき、意見交換したいと考えている。

※事務局から、本日の議事録を作成し委員へ送付すること、委員名を伏せた形でホームページで公開すること、広報11月号で市民の皆様へお知らせすることについて説明し了承。

4 閉会

会議終了。